

1. 第5回国際シンポジウム

新学術領域研究第5回シンポジウムが、2011年7月7日(木)～8日(金)の日程で、北海道大学スラブ研究センターを会場として行われます。第1班が組織する今回の国際シンポジウムは、冷戦期のユーラシア国際関係をテーマとしています。大会のプログラムは、以下の通りです。当シンポジウムへの参加を希望される方は、新学術領域研究事務局宛 (rp@slav.hokudai.ac.jp) にご連絡ください。なおその際には、レセプションへの参加の有無も、合わせてご連絡願います。[組織委員長 ディビッド・ウルフ]

新学術領域研究第5回国際シンポジウム

Alliances and Borders in the Making and Unmaking of Regional Powers

同盟と境界：地域大国を規定するもの

2011年7月7日(木), 8日(金)

北海道大学スラブ研究センター大会議室(403号室)

Thursday, July 7, 2011

9:30～10:00 welcome: MOCHIZUKI Tetsuo (SRC Director)

introduction: David WOLFF (SRC)

Asian Alliance Systems

10:00～12:00 session 1 The Opening Door: New Archival Evidence from Japan

開き始めたドア：日本からの新たなアーカイヴ

chair: ISHII Akira (Emeritus, Tokyo U.)

INOUE Masaya (Kagawa U.)

"Japan's Pursuit of a Modus Vivendi : Normalization of Sino-Japanese Relations and the Taiwan Issue, 1971-1972"

YOSHIDA Shingo (JSPS Research Fellow)

"Credibility Imperatives vs. Domestic Antimilitarism: Japan's Alliance Policies during the 1970s"

KUSUNOKI Ayako (Kwansei Gakuin U.)

"The Evolution of Arrangements for US Bases in Japan"

commentators: GABE Masaaki (Ryukyu U.) and Vojtech MASTNY (Parallel History Project)

12:00～13:30 lunch

13:30～15:30 session 2 "Hub and Spokes" Revisited: Korea, Taiwan, ANZUS

「ハブとスポーク」を考える：韓国、台湾、ANZUS の場合

chair: SASAKI Takuya (Rikkyo U.)

IZUMIKAWA Yasuhiro (Chuo U.)

"The Emergence and Evolution of the Hub and Spoke Alliance System in East Asia"

MATSUMOTO Haruka (Institute of Developing Countries / Institute of Asian Economies)

"The Taiwan Straits Crisis Viewed from ROC Archives"

Vojtech MASTNY (Parallel History Project)

"The ANZUS Experience and Security in Asia Pacific: A Cold War Legacy."

commentator: NAKAI Yoshifumi (Gakushuin U.); ENDO Ken (Hokkaido U.)

15:30～15:45 coffeekick

Borders in Asia

15:45～18:00 session 3 China's Borders

中国の国境

chair: TBA

Sergey RADCHENKO (Nottingham U.)

"Carving up the Steppes: Borders, Territory and Nationalism in Mongolia, 1943-1949"

Soren URBANSKY (Freiburg U.)

"A Very Orderly Friendship: The Sino-Soviet Border under the Alliance Regime, 1950-1960"

Pierre GROSSER (Institut des Etudes Politiques)

"Chinese Borders and Indigenous Parallels: France, Vietnam, and the Korean Model"

LI Danhui (Beijing U.)

"New Chinese Evidence on Sino-Soviet Border Clashes"

commentator: Lorenz LUTHI (McGill U.)

18:30～ reception (Aspen Hotel)

Friday, July 8, 2011

10:00～12:00 session 4 Roundtable on Archives and Archival Projects

ラウンドテーブル「アーカイヴとアーカイヴ・プロジェクト」

Japanese POW Project TOMITA Takeshi (Seikei U.)

Japan GABE Masaaki (Ryukyu U.)

Korea KURATA Hideya (National Defense Academy of Japan)

Russia Sergey RADCHENKO (Nottingham U.)

commentator: SHIMOTOMAI Nobuo (Hosei U.)

12:00～13:30 lunch

13:30～15:30 session 5 New Recently-declassified Evidence on Sino-Indian Border Conflict

中印国境紛争：公開された証拠

chair: TBA

Lorenz LUTHI (McGill U.)

"Seeing Both Sides of the Himalayas: New Indian and Chinese Documentation"

James HERSHBERG (George Washington U.)

"U.S.-Indian Relations and the Sino-Indian Border War of 1962: New Evidence on John
Kenneth Galbraith and the Downfall of Krishna Menon"

SHEN Zhihua (East China Normal U.)

"The Sino-Korean Border Agreement of 1962"

commentator: YOSHIDA Osamu (Hiroshima U.)

15:30～16:00 coffeekbreak

16:00～17:30 final discussion session

Preliminary Conclusions, Emerging Linkages, Unresolved Gaps and Future Agendas

2. 第4回全体集会「最終成果の出版に向けて」

第5回国際シンポジウムの翌日7月9日（土）に、最終成果の出版について議論する全体集会を開きますので、ご出席を予定くださるようお願いいたします。

総括班では、最終成果の出版に関して、担当の宇山さんを中心に、いくつかの出版社と交渉を進めてきました。その結果、このほど、ミネルヴァ書房が引き受けてくれることが決まりました。各班1冊の計6巻の刊行を、来年度に行うことを予定しています。今回の全体集会は、この出版に向けて、その内容について具体的に話し合う場となります。本領域研究のメンバーの方は、ほとんどの方が執筆者として想定されていると思いますので、ご出席くださるようお願いいたします。

現時点でのプログラムは以下のとおりです。このうち2と3の部分では、各巻のセールスポイントについて、各巻の編者の方などに説明していただきます。とくに、「世界システム」、「帝国」、「文明圏」など、本領域研究全体の課題との関連で、各巻がどのような貢献をしてくれるかについて、議論したいと考えています。報告者や演題を入れたプログラムは、6月後半までに、ホームページに掲載します。

なお、メンバー（メンバー外の執筆予定者を含む）の旅費は、総括班から出しますので、事務局（rp@slav.hokudai.ac.jp）宛に早目にご連絡ください。

新学術領域研究第4回全体集会「最終成果の出版に向けて」

日時：7月9日（土）午後2時～6時

場所：北海道大学スラブ研究センター大会議室（4階403号室）

①出版の概要について（午後2時～3時）

- ・趣旨説明
- ・執筆者・編者・総括班・事務局・出版社の役割分担と連絡体制
- ・執筆・編集・刊行スケジュール
- ・質疑応答・意見交換

②各班の出版への取り組みについて（その1：午後3時～4時半）

第1班～第3班

- ・質疑応答・意見交換

③各班の出版への取り組みについて（その2：午後4時半～6時）

第4班～第6班

・質疑応答・意見交換

懇親会（午後6時半～）

3. 新学術領域プロジェクト研究員の今年度の勤務地

前年途中に採用された福田宏さんを除いて、今年新たに4名のプロジェクト研究員が決まりました。選考に当たっては、22名の応募者の中から厳正な審査が行われました。雇用期間は平成23～24年度の2年間です。

氏名	博士号取得大学	平成23年度勤務地	主たる研究協力班
三輪 博樹	筑波大学（単位取得退学）	早稲田大学	第2班
星野 真	神戸大学	北海道大学	第3班
福田 宏	北海道大学	北海道大学	第4班
小松 久恵	Jawaharlal Nehru University (India)	北海道大学	第5班
前田 しほ	北海道大学	北海道大学	第6班

4. 今年度公募研究の採択結果

平成23年度の公募研究の結果が決まりました。文科省の専門委員会による厳正な審査の結果、以下の研究が採択されました。研究期間は、平成23～24年度の2年間です。

研究課題：「東アジア諸都市におけるサブカルチャーの生産・流通・受容と若者の心理」

研究代表者：千野拓政

所属機関：早稲田大学大学院文学研究科

5. 各班の研究會情報

1班

班會議

プログラム未定

日時：未定

場所：北海道大学スラブ研究センター

2班

班会議

プログラム未定

日時：2011年7月9日（土）10：00～12：00

場所：北海道大学スラブ研究センター

3班

比較大国論セミナー

報告者：Iikka Korhonen

(Head of Research, Institute for Economies in Transition, Bank of Finland)

報告タイトル：Forecasting Economic Developments in Major Emerging Markets: Some Preliminary Results

日時：2011年6月2日（木）16：30～18：00

場所：北海道大学スラブ研究センター4階小会議室（401号室）

班会議

プログラム未定

日時：2011年7月10日（日）10：00～15：00

場所：北海道大学スラブ研究センター

4班

研究会（予定）

報告者：秋葉淳、佐々木紳

（テーマはオスマン帝国を中心とする比較帝国史）

日時：2011年7月9日（土）9：30～12：00

場所：北海道大学スラブ研究センター

5班

「国家の輪郭と越境」会議

議題：「国家の輪郭と越境」中間報告とおよび成果刊行に向けた打ち合わせ

日時：2011年6月11日，12日 10：00～17：00

場所：千里朝日阪急ビル14階 11日／5号室，12日／3号室

※曜日によって部屋が変わりますのでご注意ください。

<http://www.senri-asahi-hankyu-bld.co.jp/accessmap.html>

6班

班会議

プログラム未定

日時：2011年7月9日（土）10：00～12：00

場所：北海道大学スラブ研究センター

Conference in Bangalore 2011

議題：Comparative Aspects on Culture and Religion: India, Russia, China

日時：2011年9月15日（木），16日（金）

場所：バンガロール文化社会研究センター(CSCS)セミナー室

発行者：田畑伸一郎（領域代表者）

事務局：越野剛，後藤正憲，阿部僚子

電話 011 - 706 - 4809

ファクス 011 - 706 - 4952

メール rp@slav.hokudai.ac.jp

H P <http://src-h.slav.hokudai.ac.jp/rp/index.html>

住所 〒060-0809 札幌市北区北9条西7丁目
北海道大学スラブ研究センター